

生徒対象

お名前・プロフィール・メッセージ



赤坂憲雄 (福島県立博物館館長)

1953年、東京都生まれ。東京大学文学部卒業。現在、学習院大学教授、福島県立博物館館長。専門は東北文化論。「東北学」を掲げて、地域学の可能性を問いかけてきたが、最近、東日本大震災の被災地を歩きながら、あらためて東北の歴史や文化の掘り起こしを始めている。

〈汝の足元を深く掘れ、そこに泉あり〉

この言葉に、いつも、静かに励まされてきました。君たちの足元にこそ、きっと泉があると、僕は信じています。



秋田喜代美(大学教師)

東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。東京大学教育学部助手、立教大学文学部助教授を経て、東京大学大学院教育学研究科教授。日本保育学会会長。日本読書学会会長。日本学术会议第一部(人文社会科学)委員。制度的な場での子どもや保育者・教師の発達研究を実際に保育所や幼稚園、小中高等学校の研修や園・学校づくりに参画しながら行っている。

未来の地域づくりを担う中核は、子どもたちです。子どもの声を聴き取りプロジェクト型の学びをまちづくりの真髄に置き、子ども、教師、保護者、地域の幸せを希求するイタリア レッジョ・エミリアの哲学と実践、またその日本やアメリカでの実現をご紹介します。育ち合うコミュニティの可能性を一緒に考えたいと思います。



池田昌人

(ソフトバンクモバイル株式会社
総務本部 CSR企画部 部長)

この経験を活かして力強く前に進み、未来を切り開いて欲しいと思っています。



Gad Weil (国際イベントプロデューサー&ステージディレクター)

シャンゼリゼでの自然や電車や飛行機を使ったイベント、中国のパレード、また2000年7月14日には200万人を集めたピクニック、10年に渡るニースでの有名なカーニバル等、世界各地でイベントを開催。

これまでの30年に渡る私の経験を、皆さんに伝えるためにここに来ました。皆さんのパリでのイベントは、東北の自信と希望、そして再生を世界に示す、素晴らしいものになると信じています。

<<Votre jeunesse, vos idées et mon expérience seront ensemble les ingrédients d'un grand succès. (Your youthfulness and your ideas together with my experience will make the ingredients of a big success.)>>



Gaby Hostens

今は定年退職しましたが、昔は英語の先生や学校長、政策立案者をしていました。若者とともに、また若者たちのために活動することが大好きです。私にとって、「教えること」は、知識を共有すること以上のものです。教育は4つの柱—知ることの学び、行うことの学び、誰かと共に生きる・他人と生きることの学び、存在することの学び—に基づく、とジャック・ドローールの言葉にあります。

私は、日本に3度訪れたことがあり、いくつかの小中学校を訪問する機会がありました。とても大きな和太鼓を作った職業学校の生徒さんたちから、素晴らしい思い出をいただきました。

私は、地震、津波、原発事故という3つの災害という難しい状況において実行されたこのプロジェクトに参加できることを楽しみにしています。私は、あなたたちが立ち直る力を持った人たちで、この状況を乗り越えることができると思っています。では、会場にてお会いしましょう。



齋藤剛 (ソフトバンクモバイル株式会社 総務本部 CSR 企画部 企画課 課長)

皆さんにお会いできることを楽しみにしています。そして、皆さんが作っていく将来に期待しています。



Juliette de Sarnez

渉外及びコンシューマー向けコミュニケーションの専門家。戦略コンサルタント、パートナーシップ開発、イベントコミュニケーションの展開などに従事。

震災から2年が経過しましたが、チーム「環」の現在を超えて、未来を創る、という皆さんの意思是、ますます大きなものになったのではないかと思います。だからこそ、私はみんなと共に、ここにいるのです。



榎木泰西 (テレビマンユニオン・プロデューサー)

早稲田大学卒業後、1986年テレビマンユニオンに入社。「地球ZIGZAG」「世界ウルルン滞在記」など数々のTV番組を演出・プロデュース。現在「情熱大陸」「NHKスペシャル」「ハイビジョン特集」などのドキュメンタリー番組をてがける。

東北には世界に誇れる伝統が、文化が、人情があります。みんなで力を合わせて、勇気を持ってアピールしましょう！



西島 清順

1980年生まれ。明治元年より150年続く、花と植木の卸問屋「株式会社 花宇」の5代目。日本全国・世界数十カ国を旅し、収集・生産している植物は数千種類。日々集める植物素材で、国内はもとより海外からのプロジェクトも含め年間2,000件を超える案件に応えている。2012年1月、ひとの心に植物を植える活動“そら植物園”をスタート。コンサルティング事務所を構え、様々な企業・団体・個人と植物を使ったプロジェクトを多数進行中。著書『プラントハンター 命を懸けて花を追う』（徳間書店）。

中学2年生だったある朝、僕は阪神大震災を経験しました。おばあちゃん家は全壊し、ほとんどの温室のガラスが粉々になり何千という温室のなかの植物たちはボロボロになりました。

そんななか、父や従業員さんは、みんな黙々と片付けを続けていて、“何があっても生きていくことはこういうことなんだな”と強く思ったのを覚えています。いま僕は32歳になり、植物ができること、植物が教えてくれること、植物と触れ合うことで人と人のつながり作るきっかけを作るような仕事と活動をしています。もし巴りの地に東北の桜が根付き、育ち、咲いたらきっとすばらしいメッセージとなり、勇気となることと思います。微力ではありますがお手伝いができればと思います。

”念ずれば花ひらく”



箕輪憲良 (Yahoo! JAPAN ヤフー株式会社 ソーシャルアクション室)

ヤフー入社後、検索などのマーケティングを担当。東日本大震災時に、社会貢献担当として寄付や NPO 支援などを実施。現在、復興支援や教育など、社会課題解決をミッションに持つ。

みんな、この世の中、今のままでいいと思う??

もし、「変わったほうがいい」と思うことがあるならば、自分を変えちゃおう

そして、「コレだ!」と思ったことは世の中に発信していくこと

きっと世界はそこから変わっていくよ